

令和5年度みやぎの共生社会を目指す生涯学習推進事業



ひなたのつどい

～誰もが楽しみや学びに出会うために～

共に学び、共に生きる共生社会コンファレンス

大学公開講座

実践報告

ひむかアカデミアin看護大

宮崎県立看護大学

報告者 川原瑞代（宮崎県立看護大学 看護研究・研修センター長）

1. 宮崎県立看護大学の紹介



- ☀️ 平成9年開学
- ☀️ 看護職を目指す学生の教育
保健師（大学院）、助産師（別科）
看護師（学部）
- ☀️ 健康生活の実現を目指した多様な取り組み
（教育・研究・生涯学習支援・地域との連携事業
など）



F. Nightingale

☀ ナイチンゲールの夢の実現

「すべての幼児，すべての人たちが健康への最善の機会を与えられるような方法，すべての病人が回復への最善の機会を与えられるような方法が学習され実践されるように！」

☀ ナイチンゲールの考え方を基盤にした教育

“看護”とは

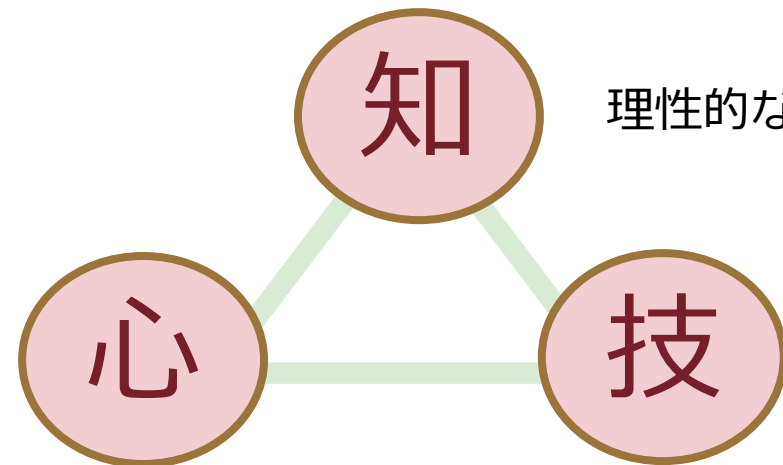
生命力の消耗を最小限度にするよう働きかけること

“健康”とは

持てる力を十分に活用できている状態

“三重の関心”

心のこもった人間的
な関心



理性的な関心

実践的な関心

2. ひむかアカデミアin看護大



日時 令和5年10月28日（土）午後1時～午後4時
場所 宮崎県立看護大学



目指したこと

学びと出会いを生む場となり、障がいの有無にかかわらず、誰もが**その人らしく健康**に暮らせる社会の実現

参加者の**個性**や**持てる力**を**確かめ、高め合う**

参加者**相互の理解**を深め、豊かな**成長**の機会とする

協力体制

宮崎県立看護大学
看護研究・研修センター

協働

宮崎県教育庁生涯学習課
コンソーシアム連携協議会

宮崎県立看護大学
学生サイクル団体（手話、和太鼓、茶道、ボランティア）・その他の学生

- ◆企画委員 16名
（大学6，学生7，視覚障がい者1，聴覚障がい者1、県1）
- ◆実行委員 22名
（大学4，学生18）

宮崎県立
視覚障がい者センター

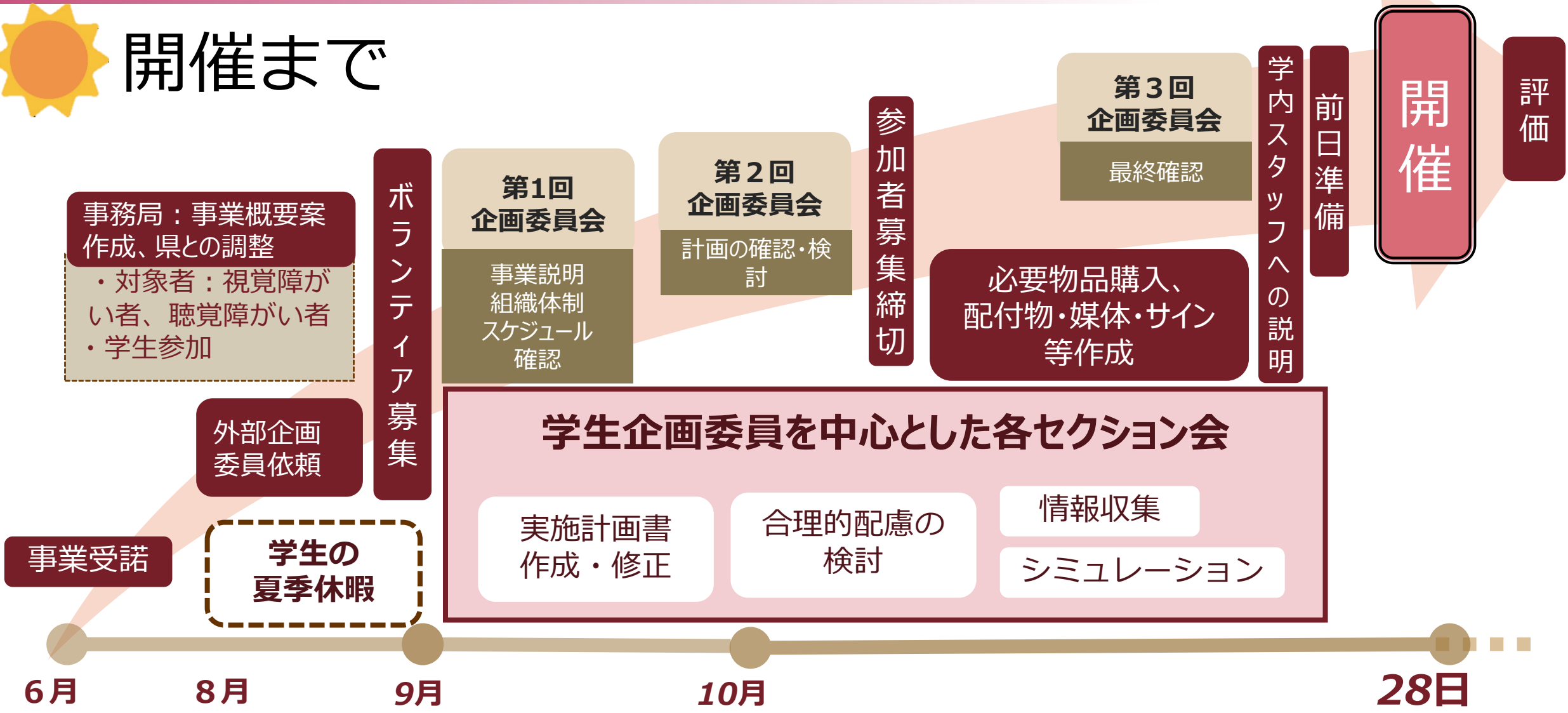
宮崎市聴覚障害者協会

宮崎市視覚障害者福祉会

宮崎県聴覚障害者協会



開催まで





プログラム

うけつけ
受付

12:30～13:00

かいかいしき
開会式

13:00～13:10

あいさつ かくちょう ながつる み さ こ
ご挨拶 学長 長鶴美佐子

オリエンテーション

13:10～13:20

がくせい きかく だいがく
学生企画1 大学ツアー

ほね けんこう せいかつ こつみつどそくてい ほね けんこう せいかつ はなし
骨の健康と生活（骨密度測定/骨の健康と生活の話）

13:20～14:45

がくせい きかく ちゃや さどうたいけん
学生企画2 いきいき茶屋：茶道体験

いどう
(移動5分)

がくせい きかく わだ いこたいけん
学生企画3 和太鼓体験

14:50～15:50

へいかいしき
閉会式

15:50～16:00

へいかい
閉会

16:00

■ 一般参加者 17名

視覚障がい者	3名
ガイドヘルパー	3名
聴覚障がい者	8名
援護者	1名
手話通訳者	2名



特色 1 学生、教職員、障がい当事者による共同企画



障がいの特性や希望をふまえた企画のヒントを得る。

困りごとを知り、必要な配慮を具体的に考える。

障がいをもって生活する方の日頃の様子を知る。

当事者の方と学生、教職員が交流を深める。

企画委員会



声をかけるのは、若い方がいいですか？
年配の方がいいですか？

太鼓に触れてみたい、
やってみたいというのはありますね。

共に考える

今まで、見える、
聞こえることが前
提でやっている。

初めての経験
で、どうした
らいいだろう。

大学内は、目が見えないと危ないのでは。

「あたりまえ」 を見直す

点字の案内や
ブロックは、
どこにある？

「手話」？
他の方法も
ある？



大学ツアー 実習室の説明文

ふりがな、写真
を付けてわか
りやすく。

りんしょうか んご じっしゅうしつ 臨床看護実習室2

きゅうせいき かんご こうれいしゃ かんご がくしゅう きょうしつ
急性期の看護や高齢者への看護を学習する教室です。

きゅうせいき かんご まな 【急性期の看護を学ぶ】

びょうしつ そうてい かんきょう なか かんじゅ やくわり かんごし
病室を想定した環境の中で、患者の役割や看護師
やくわり えん かんごぎじゅつ みが
の役割を演じながら看護技術を磨きます。

こうれいしゃ かんご まな 【高齢者への看護を学ぶ】

さいしょ こうれいしゃ かけい へんか たいけん こうれいしゃ
最初に、高齢者の加齢による変化を体験し、高齢者
きもち コミュニケーションの取り方を学びます。



自分たちを
知ってもらおう

大学のこと
を知ってほ
しい。

“知ろう”と 動く

見えなくても使えるんだ！すごい！

◆インターネット
◆話を聞く
聴覚支援学校で太鼓を使う。太鼓の大会がある。風船を使うと音波が伝わる。

視覚障がい者向けスマホ講座の見学



特色 2

学生の主体的な企画



サークル活動や日頃の学修成果を発揮できる機会となり、意欲や達成感の高まり。

サークルメンバーで集まる機会が増え、お互いを知りあう。

学生と教職員の交流の深まり。

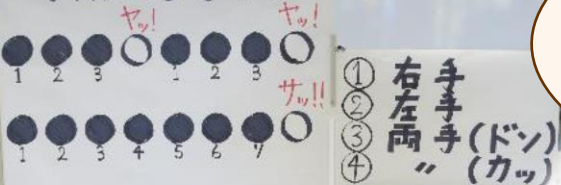
学生ならではの、豊かな発想。

相手の立場 に立つ

目をつぶって
やってみる。
「怖い！！」

難しい……。でも
日頃、経験が少ない方々。
楽しんでもらいたい。
頑張ろう！

リズム (3・3・7)





大学祭で使うベンチだと
低くて、座りにくい。

茶道に触れる機会はほと
んどないのでは？
楽しむことを優先しよう。



苦労されていること
とか考えながら



特色 3 看護大だからできること（人、機材、環境）



参加者と学生のグループを作り、学生が必要な配慮を行う。

学修の段階に応じた、学生を配置できる。

「健康な暮らし」につながることを伝えることができる。

大学の充実した設備、学修環境を活用できる。

体調不良時の迅速な対応が可能である。

広い教室・映像機材・空調設備等

大学の資源
を使う



新生児モデル

骨の健康 (骨密度測定)

卒業研究」で
取り組んでいます！！

呼吸や心臓の動き、
わかります！
すごく早いですね。

障がいがあると結
婚とか、子育てと
かあきらめる人も
いるんですよ。

「孫」が
いるので、
抱っこは、
大丈夫。

あまり、運動
する機会が少
なく、骨密度
は低いかも。

生活を知る

お茶の作法と効用

できることを
する



私たちのからだ（人体模型）



食事のしづらさを軽減する工夫（自助具）

体験を共有 する



特色 4 楽しく学び合う

参加者

聴覚障がい



- ・看護大にきたのも初めて。学生と何かをする経験もなかったので楽しかった。
- ・風船で、これまで感じなかった「低音」や「小さな音」を感じることができた。
- ・お茶の作法や説明に「なるほど」と思った。
- ・骨密度で自分の健康がみれた。
- ・学校で「太鼓」のクラブに入っていたので、久々で楽しかった。
- ・「次は何があるのだろうか。」とワクワクした。
- ・「疲れ」はなく、逆に元気になれた。
- ・このような機会があれば、
周りの人にももっと声かけしたい。
- ・大学祭の「手話体験コーナー」に手伝いに行ければと思う。

やりたいこと
が楽しめる

参加者

視覚障がい

- このような企画は初めて。とても大事。
- 学生も先生たちも、とても一生懸命。
- また機会があれば、是非参加したい。
- 「骨密度」を初めて測ることができてよかった。
- 学生が、いい勉強をしている。無理をせず、頑張ってもらいたい。
- 「聴覚障がい」と「視覚障がい」の人が、一度に参加することはあまりなかった。これからも交流できるといい。



分からないことだらけの中でどうすれば理解してもらえるのか、どうすれば楽しんでいただけるかを当日のギリギリまで**試行錯誤**し、苦しいなと思うこともあったが、当日はお互いに**新たな発見**が見られ、とても楽しい思い出になった。この1日を振り返り、この**交流は今後も続けていく**べきだなと思った。

視覚障がい、聴覚障がいのある方々と触れ合う機会がこれまでほとんどなく、当日も始まるまでは不安と緊張が大きかったですが、いざスタートすると、コミュニケーションはきちんと取れ、**私たちと同じように楽しんで感動**してくださいました。障がいのある方と接する時の大きな壁だと感じていた**コミュニケーションを、次からは気負いなく**自分から取りにいける、取っていきたいと思うキッカケになりました。

最後の和太鼓のセッションを皆さんにとっても喜んで頂き、今までサークルで**和太鼓をやっていた**と本当に思いました。また、**手話を勉強**しているということ、聴覚障がい者の方に伝えたら、「ありがとう」と言われ、**色んな人のことについて、これからも学んでいこう**と思いました。



参加された方々がとても満足されており、大変うれしかった。また、障がいのある方々と関わる中で、こちらの手段が限られていてもとても関心を持って話を聞いてくださり、有難かったし、**人々の力を感じる**ことができた。

初めて視覚障がいの方や聴覚障がいの方と交流して、皆さんの**出来ることや楽しみにしていること**などの**様々な発見**があった。

始めは聴覚や視覚に障がいがある方とコミュニケーションをとることに対して**不安**が大きかったけれど、実際に関わってみると**楽しく参加**でき、とてもいい経験ができた。また、安全な動線の確保や、説明する時の言葉選びなどの**視点を今まで以上に持てる**ようになった。





事業を終えて

■ 学生評価

- ・ 事業目的や目標の達成度 **100%**
- ・ 参加満足度 **94%**
- ・ 意見
 - ・ もう少し早く準備ができたなら良かった。
 - ・ 十分に練習時間や話し合いの時間を取ることができなかった。
参加者の方のためになることをじっくり考えてつくりあげたかった。
 - ・ (当日参加の実行委員) 本番の具体的なイメージや、役割を掴むまでに時間がかかった。
 - ・ 障がいの特性で、同じような時間配分とならず、進行がうまくいかないところがあった。

■ 総合的な評価

- 事業の目的・目標を達成できた。
- 企画段階から障がい当事者と協働することで、学生・教職員が合理的配慮の考えを深めた。
- 学生は、日頃の学修や活動の成果を発揮することができ、さらに新たな気づきを得る機会となった。
- 今後、学生活動（サークル活動）において、当事者の方と関わる機会が増えるなど、課外活動の活性化が期待できる。
- 事業日程のタイトさは、改善が必要である。
- さらに地域社会との「繋がり」を進め、大学の資源を地域社会に還元し、健康生活の実現に努めることが重要である。

生きた、
笑顔がある郷土がある



「ひむかアカデミアin看護大」の実施にあたり、各方面からの多大なご協力に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

宮崎県立看護大学